

dBTechnologies

VIO S118R







アクティブ バスレフレックス サブウーファー

取扱説明書





安全にお使いいただくために







製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出た、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災/感電の原因となります。 お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。 万一、煙が出ていたり、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災/感電の原因となります。 定期的（年 1 回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災/感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。 また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。 火災/感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20 cm 以上）離して設置する隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災/感電の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災/感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災/感電の原因となります。 内部の点検 / 修理はお買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災/感電の原因となります。</p>

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 指示	<p>設置の際は、資格や経験を持った人(専門業者)に必ず依頼する</p> <p>天井や壁掛け設置、床などに設置の際は、設置場所の強度を確保する</p> <p>使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。</p> <p>天井/壁/柱/床などに設置する場合は、設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。</p>

	注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す</p> <p>コードが傷つき、火災/感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜き通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。</p>
 指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災/感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災/感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。
 注意	<p>5年に1度は、機器内部の掃除をお買い上げの販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)にご相談ください。</p> <p>内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。</p> <p>特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

目次

安全にお使いいただくために.....	2
ユーザー登録について.....	4
はじめに.....	4
本製品の構成.....	4
本書の表記.....	4
商標および著作権に関して.....	4
アフターサービス.....	5
設置上の注意.....	5
結露について.....	5
製品のお手入れ.....	5
本機の概要.....	5
主な特徴.....	5
設置用別売りアクセサリ.....	6
適合ケーブル.....	6
各部の名称.....	7
電源パネル.....	7
コントロールパネル.....	7
電源および外部機器との接続.....	9
電源と電源リンクの接続.....	9
オーディオ信号の接続.....	9
RDNetの接続.....	9
設置と構成.....	10
組み合わせとリモートコントロール.....	10
設置時の取付け位置.....	11
運搬用台車による本機の運搬.....	11
アダプターフレーム AF-VIO1を使用して VIO L208(またはVIO L210)の床置設置.....	12
フライバー DRK-210を使用して VIO L210の床置設置.....	13
アダプター DSA-VIOL208を使用して VIO L208の床置設置.....	14
dBTechnologies Composerソフトウェアについて (Ver. 6.3.0以降).....	15
トラブルシューティング.....	16
各種ダウンロード.....	17
F/Wアップデート(USB Burner Manager ソフトウェア).....	17
リモート機器の取扱説明書ダウンロード先.....	17
アクセサリの取扱説明書ダウンロード先.....	17
dBTechnologies Composerのダウンロード先.....	17
dBTechnologies Networkのダウンロード先.....	17
dBTechnologies Networkについて.....	17
仕様.....	18
一般.....	18
寸法図.....	19

ユーザー登録について

dBTechnologies の下記ウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<http://www.dbtechnologies.com/en/support/register/>

はじめに

このたびは、dBTechnologies VIO S118Rをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書(日本語)は、TASCAMのウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://tascam.jp/jp/>

- 最新版の取扱説明書(英語)については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、“VIO”の項目を選択して、上段“Manuals”の列から対象となるPDFファイルをダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱装箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体 (VIO S118R)..... × 1
- Neutrik powerCON TRUE1付 電源コード..... × 1
- 取扱説明書(本書、保証書付き)..... × 1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を“MAIN”のように“_”で使って表記します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Neutrik および etherCON は、Neutrik AGの登録商標です。また、powerCON および TRUE1 は、Neutrik AGの商標です。
- DigiproはAEB INDUSTRIALE SRLの商標です。
- dBTechnologiesはA.E.B Industriale SRLのそれぞれの国における商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付（巻末に記載）されています。大切に保管してください。万が一お買い上げの販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店 / ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック修理センター（巻末に記載）が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）までご連絡ください。
- 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番 (VIO S118R)
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

設置上の注意

- 設置は、資格や経験を持った人（専門業者）が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 本機の動作保証温度は、摂氏-15度～55度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム(うなり)を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。

化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

本機の概要

dBTechnologies VIO S118Rは、Digipro G4 アンプ(クラスD)を搭載したアクティブ サブウーファーです。

長年のスピーカー開発の経験から生み出された技術で、音響的にも電氣的にも最適化な、バランスの良い低域を再生し、屋内外における中規模および大規模な会場に最適です。

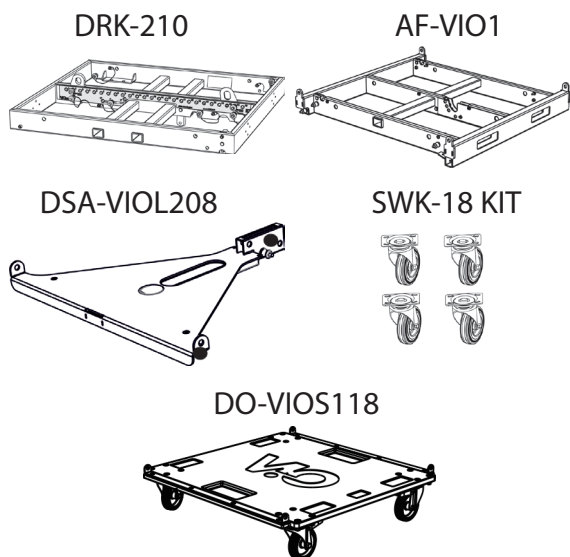
また、設置が容易で VIO ラインアレイ (VIO L208 /VIO L210) などのアクティブ ラインアレイ モジュール) と組み合わせた場合、多くの構成や設置に対応可能です。

主な特徴

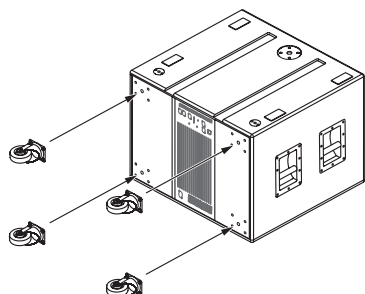
- 18 インチウーファー (4 インチ・ボイスコイル) 搭載。
- 表面の耐久性を高めるポリウレアコーティングが施された合板を使用しています。
- 運搬や設置のための専用アクセサリを用意しています。
- 高効率の Digipro G4 アンプ (クラス D) によって、最大 SPL で [139 dB(1 m)]、RMS [3200 W] を出力し、静かでパワフルなアンプを搭載しています。
- 専用 DSP による細かな制御を実現し、最も適切な設定でチューニングが行えます。
- 入力信号へのハムノイズ侵入などの、障害を完全に排除する ADC フローティングテクノロジー採用しています。
- 電源やオーディオ信号の最適なワイヤリングができるデジチェーン接続に対応しています。
- 着脱式カードによる RDNet コントロールに対応し、事前のシミュレーションソフトウェア (dBTechnologies Composer) と遠隔操作が可能なソフトウェア (dBTechnologies Network / AURORA NET) をご用意しています。

設置用別売りアクセサリ

輸送や本体設置のために下記の別売りアクセサリが、ご使用になります。



- DRK-210: フライバー (吊り下げ / スタック兼用)
本機の上に VIO L210 (最大 4 台) を設置する場合に使用します (※ 1)。
 - AF-VIO1: アダプターフレーム (吊り下げ / スタック兼用)
本機の上に VIO L208 (最大 4 台) / VIO L210 (最大 4 台) を設置する場合に使用します (※ 1)。
 - DSA-VIOL208: VIO L208 専用スタックアダプター
本機の上に VIO L208 をポールマウント DS 2 (別売り) を使用して設置する場合や、直置きで設置するアダプターです。
 - ポールマウント時: 最大 2 台 (※ 1)
 - スタック設置時: 最大 4 台 (※ 1)
- ※ 1 指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。無料の dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用して、設置するラインアレイ構成に適した台数を確認してください。
- SWK 18 KIT: 運搬用車輪キット (4 輪)
本機の背面 (4 輪所) の専用取り付け穴に、セットして本機を運搬するホイールキットです。



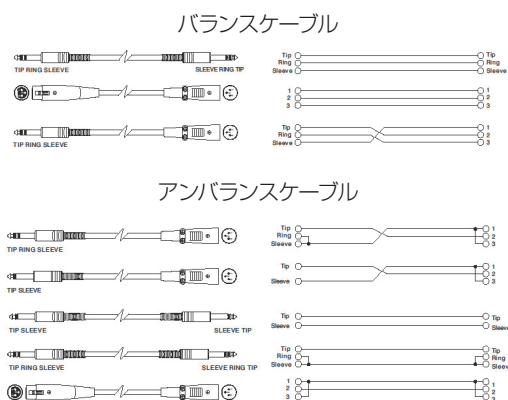
- DO-VIOS118: トローリー (運搬用台車)
VIO S118 / VIO S118R 兼用で、本機を 3 台まで積載可能です。運搬する場合、必ず荷締め用安全ストラップ等で本機と DO-VIOS118 をベルトで固定 (※ 2) して、ご使用ください。
- ※ 2 ベルトを締めすぎると本体の破損や変形が起こる可能性があります。その場合、不具合の原因になりますので、ご注意ください。

注意

- 別売りアクセサリを安全にお使いいただくために、使用前など定期的にしっかりと固定/組み立てられているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- 指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用すると、設置する方法によって、安全な耐荷重を確認することができます。(15 ページの「dBTechnologies Composer ソフトウェアについて (Ver. 6.3.0以降)」を参照)

適合ケーブル

本機に適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

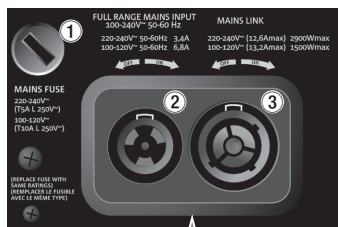


注意

ケーブルの接続/取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。

各部の名称

電源パネル



① MAINS FUSE

フューズホルダー

万一、動作しなくなった場合は、電源コードを抜いてティアック修理センター (巻末に記載) にご相談ください。

② FULL RANGE MAINS INPUT

AC電源 端子 (Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子)
付属のNeutrik powerCON TRUE1付 電源コードを接続します。

注意

- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- 本機を設置後、電源を入れる前に、必ず本機の **Subwoofer Attenuation** ボリューム (17) のレベルが **0 dB** ポジションであることを確認してください。

③ MAINS LINK

電源リンク 端子 (Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子)
他のサブウーファーやアクティブスピーカーなどに電源を供給する端子で、**FULL RANGE MAINS INPUT** (①)端子とは、並列接続になっています。

ご使用時は、別売りの専用Neutrik powerCON TRUE1付 LINKケーブルをお使いください。

MAINS LINK(電源Link 端子)の最大供給電流は、下記の表に記述してある許容範囲まで、スピーカーを接続することができます。

MAINS LINK 端子の最大供給電流 (AC100-120V時)

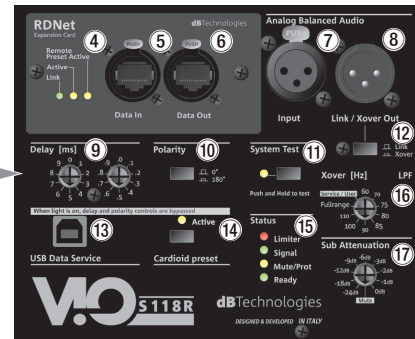
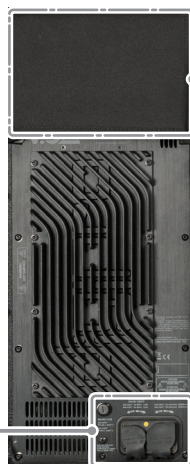
13.2 A (max)/1500 W (max)

注意

- 最大供給電流を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- 上記以外の方法で、他のアクティブスピーカーなどに電源供給を絶対に行わないでください。その場合、感電および機器を破損する恐れがあります。
- Neutrik powerCON TRUE1付のケーブルについては、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) にご相談ください。

コントロールパネル

背面パネル



④ コントロール LED

RDNetネットワーク関連のステータスLEDです。

- Link LED (緑色)**
RDNetネットワークがアクティブの場合に点灯します。
- Active LED (黄色)**
RDNetネットワーク上でデータ通信を行っている際、点滅します。
- Remote Preset Active LED (黄色)**
本機がRDNetネットワーク上で、制御 (リモートコントロール) されている場合に点灯します。
RDNetネットワークの使用の詳細は、17 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

⑤ Data in (RDNet ネットワーク接続用)

データ入力 etherCON 端子 (Neutrik社製)
別売りのネットワークコントローラー RDNet Control 2またはControl 8に接続します。

⑥ Data Out (RDNet デイジーチェーン出力用)

データ出力 etherCON 端子 (Neutrik社製)
本機を複数台設置する際やラインアレイ構成で、他のRDNet対応スピーカーにデイジーチェーン接続して使用します。

⑦ Analog Balanced Audio Input

XLRバランス 入力端子
XLR 端子によるアナログバランス入力端子で、ミキサーや他のスピーカー (音源)のバランス信号入力が可能です。

注意

電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。

⑧ Analog Balanced Audio Link/Xover Out

XLRバランス 出力端子
本機を複数台設置する際にデイジーチェーン構成で出力するオーディオ信号の接続や他のアンプ内蔵スピーカーにオーディオ信号を出力する際に使用します。
また、クロスオーバー信号が必要な場合にLink/Xover周波数切換えスイッチ (12) で設定した周波数で、信号を出力します。

⑨ Delay [ms]

ディレイ調整

本機から再生される音のディレイ値を2つのロータリー スイッチで、[0~9.9] msの範囲で調整します。

- ロータリー スイッチ 左側[0~9] ms/
右側[0~0.9] ms

ディレイ値の設定は、例えばロータリー スイッチの左側を[5]に設定し、右側を[.5]に設定した場合、ディレイ値は [5.5] msになります。

また、エンドファイヤー構成時など強い指向性を持たせたい場合に2~3台のサブウーファーを同時に使うことにより、直接サブウーファー正面の広がる音を、変えることなく背面に回り込む低域を大幅に減衰することが可能です。

⑩ Polarity

Polarity(極性) スイッチ (OFF : 0° / ON : 180°)

本機の極性を0度、または180度反転する場合に選択するスイッチです。

本機を複数台設置する際やラインアレイモジュール構成で極性を調整する際に使用します。

⑪ System Test

サブウーファーの統合性をチェックする場合に、スイープ音を発生させます。このテストは、システムの統合性をくまなくチェックできるものではありませんが、様々な場面で簡易チェックを行うことができます。

⑫ Link/Xover

Link/Xover周波数切換えスイッチ

スイッチが押されていない場合、**Analog Balanced Audio Link/Xover Out**(⑧)端子の出力がXLRバランスのオーディオ信号となります。

スイッチが押されている場合、**Xover [Hz]**(⑩)で設定したクロスオーバー周波数を**Analog Balanced Audio Link/Xover Out**(⑧)端子に出力します。

⑬ USB Data Service

サービスデータ 端子 (USB Bタイプ)

本機のF/Wをアップデートする際、使用します。

F/Wのダウンロード方法は、17 ページの「**F/Wアップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)**」を参照してください。

⑭ Cardioid preset

カーディオイド設定スイッチ

このスイッチをオンにすると、本機で設定したカーディオイド設定で動作します。

動作中は、**Active LED**が点灯します。

- **Active LED** (緑色)

Active LEDが点灯中は、本機の設定が優先され、**Polarity**と**Delay**の設定は、使用されません。

⑮ ステータス表示 LED

- **Limiter LED** (赤色)

入力信号の歪み音や他の不具合で内部リミッターが作動した場合に点滅します。

これは、アンプ回路が信号の歪みを防ぎ、ユニットが過負荷になるのを防ぎます。

注意

Limiter LEDが連続して点灯した状態は、入力信号の歪み音を伴う、過度の負荷をかかっている状態を示しています。そのままの状態、長時間連続使用しないでください。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

- **Signal LED** (緑色)

オーディオ信号が入力されている時に点滅し、適正な入力信号時のみ点灯します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

- **Mute/Prot LED** (黄色)

電源投入時に数秒間点灯し、正常な状態で動作している時は消灯しています。

アンプ内部の温度をモニターし、オーバーヒートの保護回路が作動した場合、**Mute/Prot LED** (黄色)が点滅することで知らせます。適正な内部温度になってから、音量と全ての機能は元通りに復帰し、消灯します。

その他の不具合で停止した場合は、点灯します。

- **Ready LED** (緑色)

正常に状態で動作している時、またはその他の不具合で点灯します。

本機の不具合で停止した場合は、消灯します。

⑯ Xover [Hz]

クロスオーバー 設定ロータリー スイッチ

(60 Hz~110 Hz~フルレンジ)

クロスオーバー周波数(9種類)を選択できます。

Link/Xover周波数切換えスイッチ(⑫)が押されている場合、**Analog Balanced Audio Link/Xover Out**(⑧)端子に設定したクロスオーバー周波数を出力します。

[**Service/User**] の位置を選択すると、本機のF/Wをアップデートする際や**RDNet**と**dBTechnologies Network**ソフトウェアによるリモートコントロールする場合に使用します。

- F/Wのダウンロード方法は、17 ページの「**F/Wアップデート(USB Burner Manager ソフトウェア)**」を参照してください。

- リモートコントロールについては、10 ページの「**リモートコントロール**」を参照してください。

⑰ Subwoofer Attenuation

入力感度調整ロータリースイッチ

(0/-1/-2/-3/-6/-9/-12/-18/-24 dB/Mute)

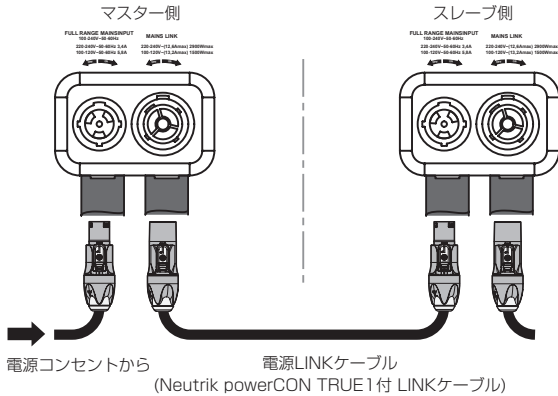
アンプ部に入力する信号の感度を調整します。

電源を投入する前は必ず、**0 dB**に設定してください。

電源および外部機器との接続

本機は、デジチェーン接続でき、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカー（マスター側）から、2台目以降のスピーカー（スレーブ側）に供給することができます。

電源と電源リンクの接続



電源の接続

FULL RANGE MAINS INPUT(AC電源端子)に付属の Neutrik powerCON TRUE 1 付電源コードを接続し、時計回りに端子を回転させてロックしてください。

ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

注意

- 電源を入れる前に、必ず本機の **Subwoofer Attenuation** ボリュームのレベルが、**0 dB** ポジションであることを確認してください。
- 電源コードは、必ず付属の Neutrik powerCON TRUE 1 付電源コードをご使用ください。また、電源 LINK ケーブルは、必ず Neutrik powerCON TRUE 1 付 LINK ケーブル（別売り）をお買い求めの上、ご使用ください。それ以外のケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。（弊社は、不適切なケーブルやコード類またはアクセサリの使用もしくは追加による損傷に対していかなる責任も負いません。）
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 濡れた手または、機器や電源コードが濡れた状態で、絶対に電源コードの接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。

電源リンクの接続

MAINS LINK(電源 Link 端子) は、マスター側からスレーブ側に専用の Neutrik powerCON TRUE 1 付 LINK ケーブル（別売り）を使って、デジチェーン接続が可能です。

- まずマスター側の本機の **FULL RANGE MAINS INPUT**(AC電源端子)に、付属の Neutrik powerCON TRUE 1 付電源コードを前述の「電源の接続」の方法で接続し、その片側を電源コンセントに接続します。
- その後、専用の Neutrik powerCON TRUE 1 付 LINK ケーブル（別売り）で、マスター側の **MAINS LINK**(電源 Link 端子)とスレーブ側の **FULL RANGE MAINS INPUT**(AC電源端子)に接続します。

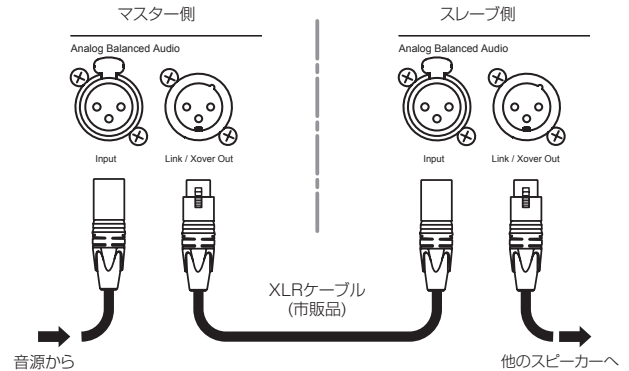
この接続を繰り返し、マスター側の **MAINS LINK**(電源 Link 端子)の上側に記載された最大供給電流に達するまで、スレーブ側のスピーカーを接続することが可能です。

オーディオ信号の接続

同一音源を2台以上のスピーカーに接続する場合、マスター側からスレーブ側に送出することができます。

- まず音源機器からマスター側の **XLR バランス入力 (Analog Balanced Audio Input 端子)** に接続した後、バランス XLR ケーブル（市販品）を使ってマスター側の **バランス出力 (Analog Balanced Audio Link 端子)** とスレーブ側の **バランス入力 (Analog Balanced Audio Input 端子)** に接続します。

この接続を繰り返すことで、以降のスピーカーを接続することができ、スピーカー配置(ラインアレイ構成)に沿った接続が可能です。



注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

RDNetの接続

本機をリモート操作をする場合は、別売りのネットワークコントローラー (**RDNet Control 2** や **RDNet Control 8**) を使用して、制御したいスピーカーの **Data In** 端子 (etherCON 端子) にコントローラーからの LAN ケーブル（市販品）を接続します。

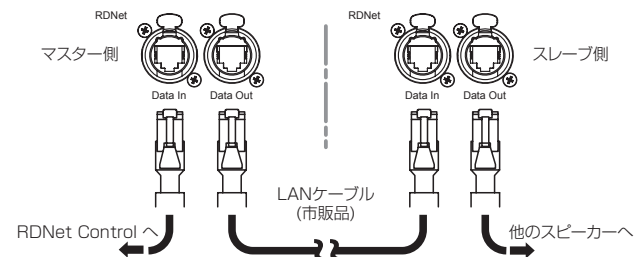
RDNet で複数機を制御する場合、マスター側の **Data Out** 端子からスレーブ側の **Data In** 端子に LAN ケーブル（市販品）で接続します。

この接続を繰り返すことで、接続されたスピーカーを制御することができます。

同様に複数のラインアレイ構成がある場合、制御できるスピーカーの最大数は下記となります。

- RDNet Control 2** : 1ch/32台 × 2ch 最大64台
- RDNet Control 8** : 1ch/32台 × 8ch 最大256台

RDNet ネットワーク上に接続した機器が認識された場合、**Link LED** が点灯します。



注意

本機をネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整/DSP等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体での設定は、使用されません。)

RDNet ネットワークの使用の詳細は、17 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

設置と構成

本機を設置後、電源を入れる前に、必ず本機の **Subwoofer Attenuation** ボリューム (17) のレベルが **0 dB** ポジションであることを確認してください。(各端子類や操作部については、7 ページの「各部の名称」を参照してください。)

注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- スピーカーを設置する前にすべての部品をチェックし、ダメージ・変形・歪み・欠落がないか確認し、設置中の安全に問題がないことを確認してください。また、本機の運搬用ハンドルを固定方法として、使用しないでください。
- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。

組み合わせとリモートコントロール

本機を単体で使用する場合、無指向性のサブウーファーとして使用できます。この場合、低い周波数のときは無指向性で、周波数が高くなるにつれて指向性を持ちます。

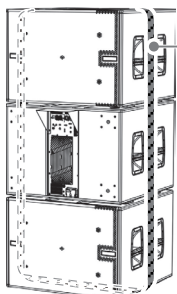
そのため、ラインアレイや他のサブウーファーと組み合わせる場合、サブウーファー単体やアレイ全体の音響特性を最適化するために、一連のコントロールが必要になります。

ユーザーが本機の操作部(※)から設定可能な操作は、クロスオーバー周波数、ディレイ(0~9.9ms)、Polarity切替(0°または180°)です。

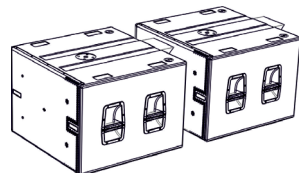
※ 操作部については、7 ページの「各部の名称」を参照してください。

また、様々な構成で使用する場合(例えば、カーディオイド、エンドファイアー、ラインアレイなど)については、dBTechnologies から無料配布される **dBTechnologies Composer** ソフトウェア(15 ページ、17 ページを参照)を併用されることをお勧めします。

エンドファイアーとカーディオイドの構成



段積みカーディオイド 設置例



平置きエンドファイアー 設置例

注意

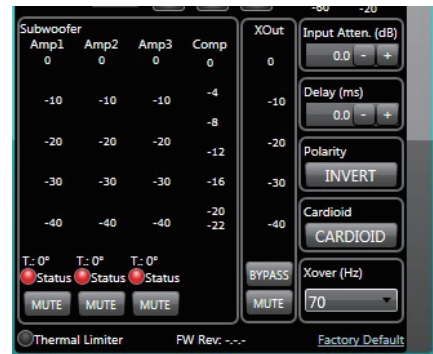
- 段積み設置の場合、組み合わせ可能な本機の台数は、3台までになります。
- 安定した設置のために、平らな床に設置してください。また、本機を段積み設置する場合、安全のためにストラップで固定してください。

リモートコントロール

注意

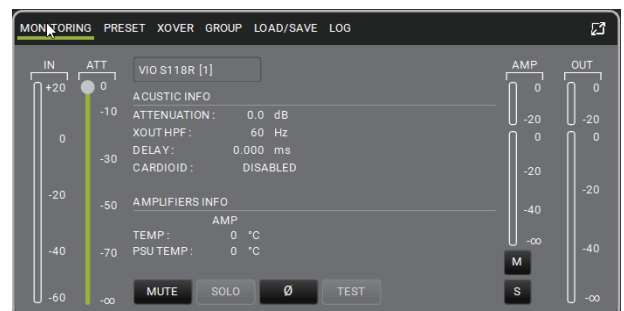
本機をネットワーク接続で制御をする場合、本機の設定は使用されません。ネットワーク経由での設定が優先されます。設置前に本機およびラインアレイ構成のスピーカーのパラメーターを物理的に複製保存することをお勧めします。

- **dBTechnologies Network** ソフトウェア (Ver 3.3.1 以降を推奨) を使用して、プロジェクトパラメーターを設定してください。



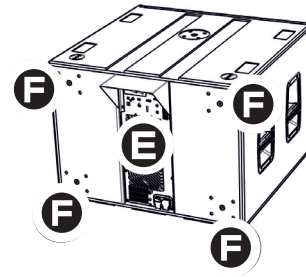
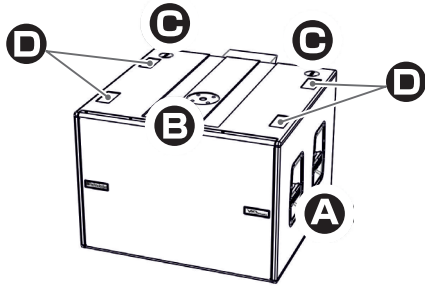
プロジェクトパラメーター設定

- 1 台目のマスター側となる本機のコントロール部で、その他のスピーカー本体のパラメーターが正しく設定されていることを確認してください。
- オーディオ信号のデジチェーン 接続、RDNet 接続、電源リンク 接続を行います。(詳細については、9 ページの「電源および外部機器との接続」を参照してください。)
- 電源投入時は、18 ページの「仕様」に記載されている突入電流に注意してください。(例えば、電源設備の容量計算や、各サブウーファーのデジレイ電源オンの検討など)
- RDNet と dBTechnologies Network ソフトウェアによるリモートコントロールの場合、ローカル設定はバイパスされて dBTechnologies Network ソフトウェアによってすべて制御されます。
- これら全てのパラメーターは、RDNet 接続が正しく行われた後、dBTechnologies Network ソフトウェアを使用することで、本機側で設定するよりも、リモートコントロールで多くのパラメーターを制御できます。(15 ページ、17 ページを参照してください。)
- dBTechnologies Network ソフトウェアの使用時でも、本機へ最後に保存された設定は、クロスオーバー設定ロータリー スイッチを [Service/User] 位置に合わせることで RDNet リモートコントロール機器を用いることなく、本機から呼び出すことができます。



クロスオーバー設定

設置時の取付け位置



本体側面/上面

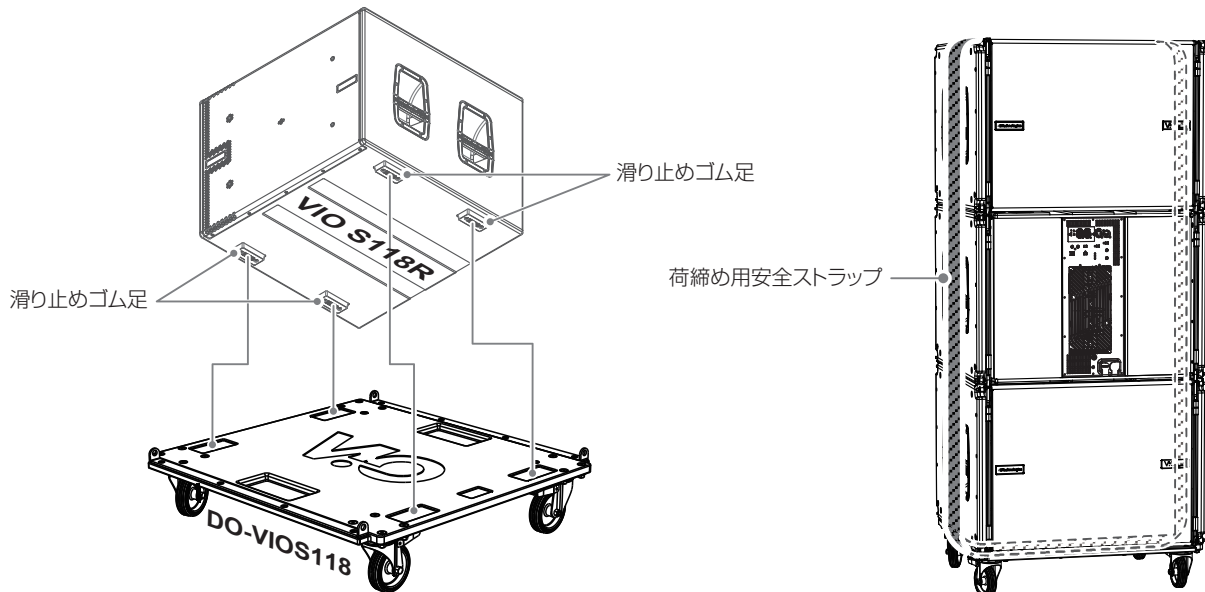
- **A** 運搬用ハンドル
左右の側面に各2ヶ所。(設置の際に本機のハンドルを固定方法として使用しないでください。)
- **B** スレッドホール
M20径のポールを接続して、複数台のアクティブスピーカー (VIO L208)を取付ける場合に使用します。
- **C** フック用ホール
床設置の際に、フライバー DRK-210やアダプターフ レーム AF-VIO1を固定する場合に使用します。

本体背面

- **D** アンプ・操作部
本機にはアンプ部への水の侵入を防いで雨天時でも、使用可能にするレインカバーを装備しています。
- **E** 位置決め穴(滑り止めゴム足用)
本機のカーディオイド設置用位置決め穴。
- **F** 車輪取り付け穴
背面4ヶ所。移動や運搬時に別売りのSWK 18 KIT(運搬用車輪)を取り付けます。

運搬用台車による本機の運搬

別売りのトローリー DO-VIOS118(運搬用台車)を使用すると、本機を3台まで運搬可能です。



- トローリー DO-VIOS118の車輪を固定します(4ヶ所)。本機の滑り止めゴム足(4ヶ所)を運搬用台車の位置決め穴に合わせて載せます。設置に必要な台数をトローリー DO-VIOS118に積載後(最大3台)、運搬中の転倒防止用に荷締め用安全ストラップ等で、本機とトローリー DO-VIOS118をベルトで固定(*)してから、設置する場所に移動してください。

※ ベルトを締めすぎると本体の破損や変形が起こる可能性があります。その場合、不具合の原因になりますので、ご注意ください。

注意

- トローリー DO-VIOS118を使用するときは、積載する指定数量(3台)を超えないように注意してください。
- 安全上の理由により、適切な積載方法を用いることなく、トローリー DO-VIOS118を使用しないでください。
- トローリー DO-VIOS118を使用するときは、安定・安全のために必ず、本機を荷締め用安全ストラップ等で固定してください。

アダプターフレーム AF-VIO1 を使用してVIO L208(またはVIO L210)の床置設置

本機の上に別売りのアダプターフレーム AF-VIO1 (以降、"フレーム AF-VIO1" と称します) を使って、最大 4 台までの VIO L208 (または VIO L210) を床置設置することができます。(以下の手順は、例として "VIO L208" で説明をしています。)

メモ

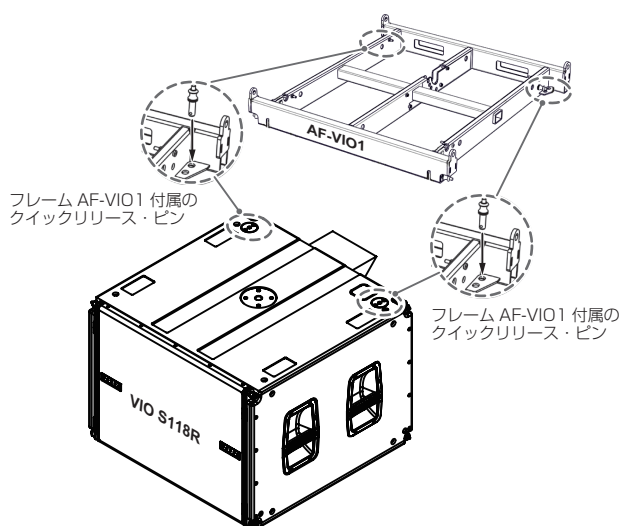
フレーム AF-VIO1 の詳細は、アクセサリーの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。
(→ 17 ページ「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」)

注意

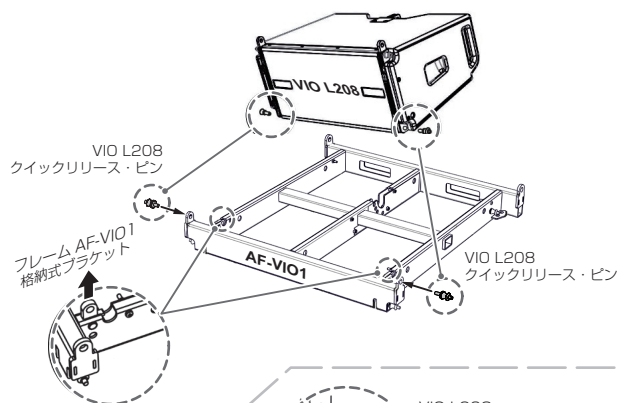
- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か、安定した場所なのか必ず、確認してから行ってください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)

1. フレーム AF-VIO1 の取付けブラケット穴を本機上面のフック用ホールに合わせて、フレーム AF-VIO1 付属のクイックリリース・ピンで固定します(下図 A 参照)。
2. フレーム AF-VIO1 から格納式ブラケットを引き上げ、VIO L208 (または VIO L210) のフロント下部の取付け穴にクイックリリース・ピンで固定します(下図 B 参照)。
3. 次に VIO L208 (または VIO L210) のスイング式ブラケットをフレーム AF-VIO1 のセンターラダーにある [STACK(下図 C 参照)] の位置に差し込み、希望する角度を $[-5^\circ / -2.5^\circ / 0^\circ / +5^\circ$ (VIO L208 の場合)] から選択し、クイックリリース・ピンでしっかりと固定します。
4. ラインアレイ構成で必要な台数を VIO L208 (または VIO L210) の取扱説明書を参考に載せます。(最大積載数 4 台)

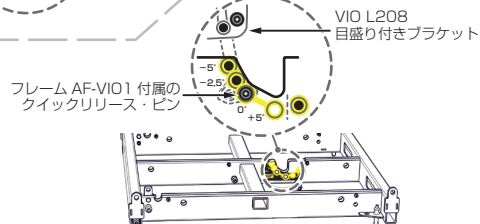
A フレーム AF-VIO1 の取付け



B フレーム AF-VIO1 に VIO L208 を取付け



C



注意

- 指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- 作業完了後、全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。
- 本機や個々のスピーカーの設定値は各操作部で適切な値に設定してください。

フライバー DRK-210を使用してVIO L210の床置設置

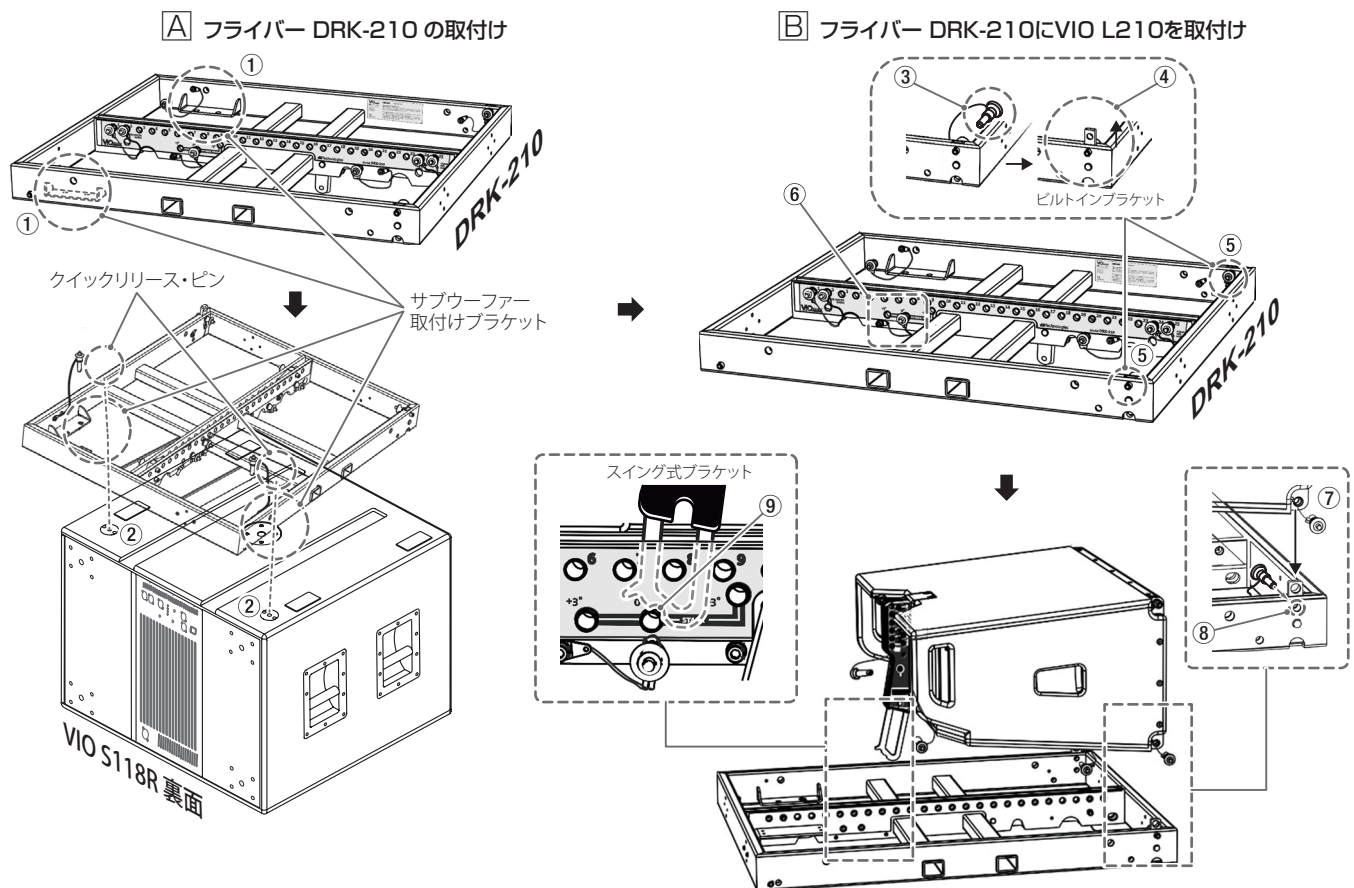
本機の上に別売りのフライバー DRK-210 (吊り下げフレーム) を使って、最大 4 台までの VIO L210 を床置設置することができます。

メモ

フライバー DRK-210の詳細は、アクセサリーの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。
(→ 17 ページ「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」)

注意

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
 - 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か、安定した場所なのか必ず、確認してから行ってください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
1. 下図 **A** を参考にフライバー DRK-210の取付けブラケット(下図 ①参照)の穴を本機上面のフック用ホール(下図 ②参照)に合わせて、クイックリリース・ピンで、フライバー DRK-210を本機に固定します。
 2. 下図 **B** を参考にフライバー DRK-210からクイックリリース・ピン(下図 ③)を外し、ビルトインブラケット(下図 ④)を引き上げ(下図 ⑤)、クイックリリース・ピンで固定します(**B**-⑧)。
 3. フライバー DRK-210のセンターラダーにある[STACK]の位置(下図 ⑥)から希望する角度[-3°/0°/+3°]を選択し、クイックリリース・ピンでしっかりと固定します。
 4. 次にVIO L210のスイング式ブラケットを起こし、スピーカーをゆっくりと降ろしながら、ブラケットの所定の場所(下図 ⑨)を[STACK]の位置に差し込み、クイックリリース・ピンで支えられていることを確認してください。
 5. VIO L210のフロント下部の接合用の取付け穴をビルトインブラケットの穴に合わせて、クイックリリース・ピン(下図 ⑦)を差し込んで固定します。
 6. ラインアレイ構成で必要な台数をVIO L210の取扱説明書を参考に載せます。(最大積載数 2 台)



注意

- 指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- 作業完了後、全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。
- 本機や個々のスピーカーの設定値は各操作部で適切な値に設定してください。

アダプター DSA-VIOL208を使用してVIO L208の床置設置

本機の上に別売りのアダプター DSA-VIOL208 (VIO L208 専用スタックアダプター) を使って、複数台の VIO L208 を床置設置することができます。

- ポールマウント時：最大 2 台 (別売りのポールマウント DS2 を使用)
- スタック設置時：最大 4 台

メモ

アダプター DSA-VIOL208 の詳細は、アクセサリーの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。
(→ 17 ページ「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」)

注意

- 設置は、資格や経験を持った人 (専門業者) が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か、安定した場所なのか必ず、確認してから行ってください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)

A アダプター DSA-VIOL208 + ポールマウント DS2 の取付け

アダプター DSA-VIOL208 とポールマウント DS 2 を使用する場合 (VIO L208 積載可能数 最大2台)

- 下図 A を参考にアダプター DSA-VIOL208 に付属のジョイントを同じく付属のローレットネジで固定します。次にアダプター DSA-VIOL208 のジョイントにポールマウント DS 2 を組み合わせて、本機上面のスレッドホールに固定します。

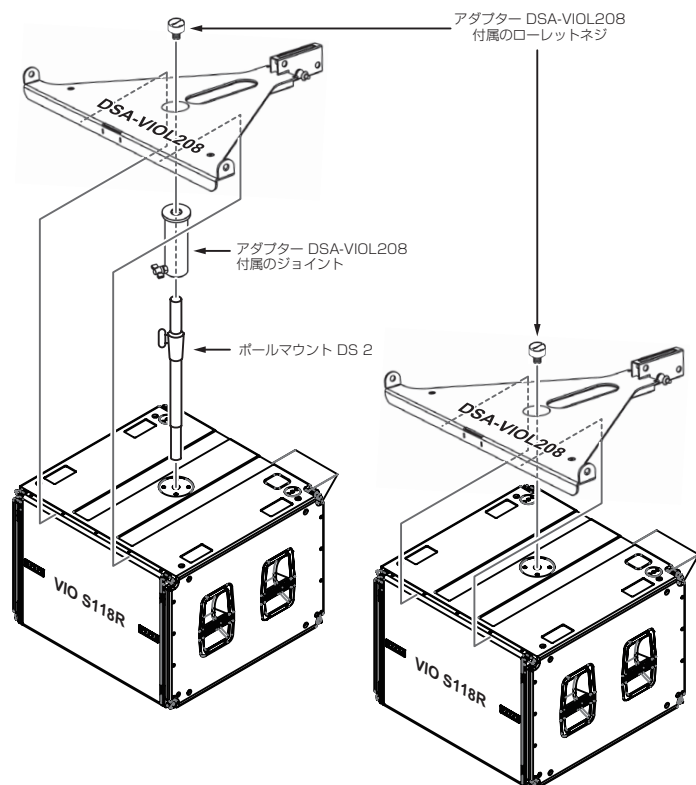
アダプター DSA-VIOL208 を直置きする場合 (VIO L208 積載可能数 最大4台)

- 下図 A を参考に本機上面のスレッドホールにアダプター DSA-VIOL208 を付属のローレットネジで固定します。

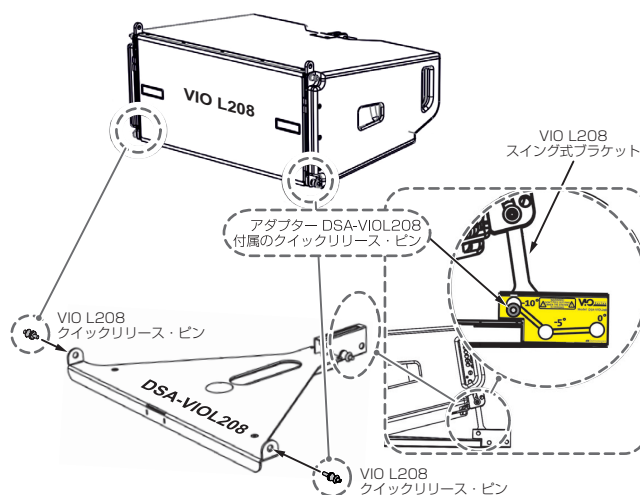
B VIO L208 の取付け

1. 下図 B を参考にラインアレイの最下段となる VIO L208 のフロント下部の取付け穴をアダプター DSA-VIOL208 の所定位置に合わせてクイックリリース・ピンで固定します。
2. 次に VIO L208 のスイング式ブラケットをアダプター DSA-VIOL208 の後端にある位置決め部分に差し込み、希望する角度 [- 10° / - 5° / 0°] を選択し、クイックリリース・ピンでしっかりと固定します。
3. ラインアレイ構成で、必要な台数を VIO L208 の取扱説明書を参考に載せます。(最大積載数は、設置形式で異なります。)

A アダプター DSA-VIOL208 + ポールマウント DS 2 の取付け



B VIO L208 の取付け



注意

- 指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- 作業完了後、全てのクイックリリース・ピンやネジが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。
- 本機や個々のスピーカーの設定値は各操作部で適切な値に設定してください。

dBTechnologies Composerソフトウェアについて (Ver. 6.3.0以降)

VIO シリーズをお使いになる場合に、無料の dBTechnologies Composer ソフトウェアを併用されることをお勧めします。このソフトウェアを使用すると、狙ったカバレッジを実現するためのラインアレイ構成のモジュール角度の解析や、選択したエリアに合わせたラインアレイ構成のシステム設定が行えます。また、設置の安全性を確認するためのツールとしても有効で、**フライバー DRK-210**や**フレーム AF-VIO 1**の静的動作をシミュレートすることで効率的に、耐荷重制限内での取付け可能なモジュールの数をあらかじめ確認することができます。

dBTechnologies Composerソフトウェアのダウンロードは、17 ページの「dBTechnologies Composerのダウンロード先」を参照してください。

dBTechnologies Composerの主な構成

- **Composer** : 設計データ入力概要
- **LAs Predict** : ラインアレイの安全性チェック、構成、およびシミュレーション
- **SUBs Predict** : サブウファアの安全性チェック、構成、およびシミュレーション

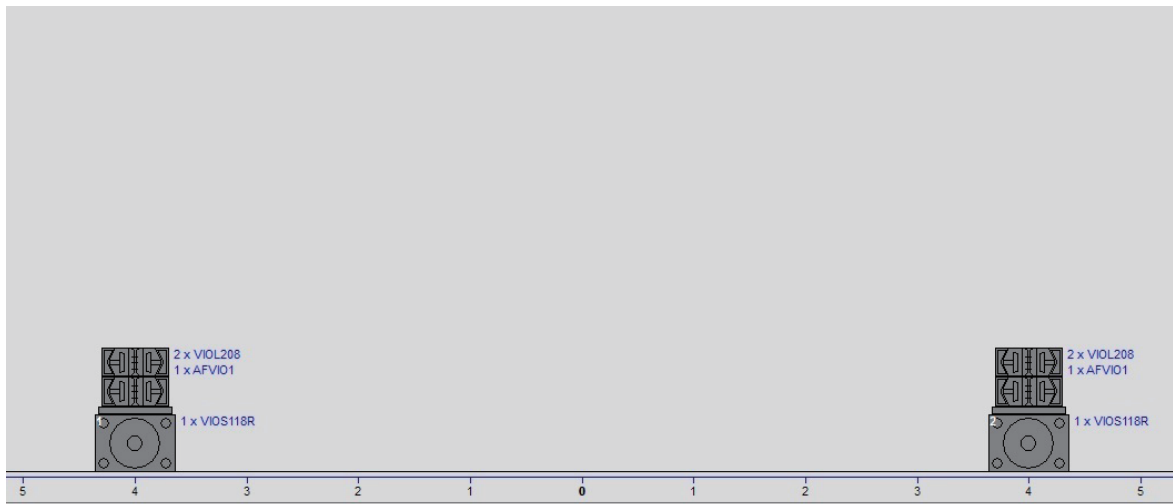
この章では、dBTechnologies Composerを使用したVIO S118RとVIO L208の組み合わせで、設置時の安全面や設置に関する説明になります。

LAs Predict 部には、VIO システムの適切な構成や、吊り下げ設置時または床置設置時に必要な全ての情報が含まれています。これらを利用するには、まず **Composer** セクションに含まれるプロジェクトのデータを入力する必要があります。

- システムデータのサブページには、さまざまなモジュールの角度調整や DSP プリセットに関する様々なパラメーター、**フライバー DRK-210**や**フレーム AF-VIO 1**の角度調整など参考値があります。最終的な角度は、**フライバー DRK-210**や**フレーム AF-VIO 1**の取扱説明書(※)に記載されているように、レーザー傾斜計を使用して現場で検出することができます。

※ : **フライバー DRK-210**や**フレーム AF-VIO 1**などの設置用アクセサリーの詳細については、17 ページの「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」から対象のアクセサリー取扱説明書をダウンロードして参照してください。

シミュレーション画面



機種選択

設置方法選択

ラインアレイ構成
入力

安全性に関するメッセージ

N°	Model	Angle [°]	SPEAKERS COUPLING	HIGH FREQ COMP.	Delay [ms]	Shape	Weight [kg]
Box# 2	VIO L208	2	A	1	0	----	18,1
Box# 1	VIO L208	0	A	1	0	----	18,1
Acc# 1	AFVIO1	0	----	----	----	----	14,4

(dBTechnologies Composerソフトウェア イメージ図)

トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

スピーカーの電源が入らない

- 電源機器をチェックして電源が供給されている事を確認してください。
- Neutrik powerCON TRUE 1 付 電源コードおよび Neutrik powerCON TRUE 1 付 LINK ケーブルの端子が、しっかり接続されているか確認してください。

スピーカーの電源は入るが、音が出ない

- 各入力端子が正しく接続されており、Neutrik powerCON TRUE 1 付 電源コードを使用されてるか、確認してください。
- ケーブルに損傷がないか確認してください。
- 接続したミキサーなどの音源に電源が入っている状態で、オーディオ信号が出力されているか確認してください。
- 接続した機器や本機の **Subwoofer Attenuation**(17) をチェックし、適正な位置に合わせてください。
(Subwoofer Attenuation(17) の場所は、7 ページ「各部の名称」を参照してください。)
- RDNet ネットワークに接続して **dBTechnologies Network** ソフトウェアで制御している場合は、MUTE 機能が無効になっていることを確認してください。

スピーカーからの音が歪んでいる、または十分な音量でない

- **dBTechnologies Composer** ソフトウェアを使用して、プロジェクト、設置および構成の仕様を確認してください。
- **Delay**(9)/**Polarity**(10)/**Cardioid preset**(14)/**Xover**(16) の各スイッチが、システムの構成に適切な設定になっているか確認し、本機のコントロール部から実際に調整して再現してください。
(なお、本機がリモートコントロールされている場合、本機のローカル設定はバイパスされますので、注意してください。)
- **Subwoofer Attenuation**(17) の位置を適切な値に合わせてください。
(Subwoofer Attenuation(17) の場所は、7 ページ「各部の名称」を参照してください。)
- RDNet ネットワーク接続および **dBTechnologies Network** ソフトウェアから制御している場合は、全てのパラメーターが適切な値に設定されていることを確認してください。
- 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、新しいケーブルと交換してください。
(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは、新しいものと交換してください。)

Mute/Prot LED (黄色)が点灯した場合

本機に不具合が発生した場合、**Mute/Prot LED** (黄色) が点灯し、音量がミュートします。
その場合、以下の項目をチェックしてください。

- 本機が正しく電源に接続されているか確認してください。
- 電源から適切な電圧が、供給されているか確認してください。
- アンプ部が過熱していないか確認してください。
これらのチェックをした後も、**Mute/Prot LED** (黄色) が消えない場合、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) にお問い合わせください。

各種ダウンロード

F/Wアップデート(USB Burner Manager ソフトウェア)

本機の全ての機能を確実に使うためには、F/W を常に最新のものにしておくことをお勧めします。

定期的に dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページをチェックしてください。F/W の更新が合った場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

- 1) 上記のDownloadページから"**Software & Controllerr**"を開いて、[**USB BURNER MANAGER**]ソフトウェアをダウンロードし、表示される手順に従ってインストールしてください。
- 2) 上記のDownloadページから"**VIO**"を開いて、上段の"**Firmware**"の列と対象となる"**VIO**"機種種の行から、最新のF/W (zip 形式)をダウンロードしてください。
ダウンロード後、解凍してください。
- 3) 本機とパソコンをUSBケーブル(別売り社外品)で接続してください。
本機の通信用USB 端子は、7 ページの「**各部の名称**」を参照してください。
- 4) [**USB BURNER MANAGER**]ソフトウェアを起動し、画面右上から、"**File Opening...**"を選択してください。
- 5) 先程ダウンロードしたF/Wを選択してください。
(お使いのシステムに最適かチェックします。)
- 6) "**UPDATE**"をクリックし、アップデート作業をスタートしてください。

注意

F/Wアップデート後の電源投入で、保存した各種設定が失われる場合があります。

リモート機器の取扱説明書ダウンロード先

リモート機器の取扱説明書については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、"**Software & Controllerr**"の項目を開いて、上段の"**Manuals**"の列から対象となる名前のPDFファイルをダウンロードしてください。

● 取扱説明書

● RDNet Control 2

"RDNet CONTROL 2_cod420120189_Revx.x-MAN.pdf"

● RDNet Control 8

"RDNET CONTROL8_cod420120183_Revx.pdf"

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先

各アクセサリーの取扱説明書については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、"**Installation**"の項目を開いて、上段の"**Manuals**"の列から対象となるアクセサリーのPDFファイルをダウンロードしてください。

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

dBTechnologies Composerのダウンロード先

dBTechnologies の下記ウェブサイトより、ソフトウェアをダウンロードできます。

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/es/downloads.aspx>

ダウンロードページから **Software & Controller** の項目を選択して、下記ファイルをダウンロードしてください。

● セットアップファイル

"dBTechnologies_Composer_setup_x.x.x.zip"

● ソフトウェア取扱説明書

"Manual-dBTComposer_REVx-x.pdf"

解凍後、ソフトウェア取扱説明書の手順に従って操作してください。

dBTechnologies Networkのダウンロード先

dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、"**Software & Controllerr**"の項目を開いて、上段の"**Software**"の列から対象となる名前の圧縮ファイル(zip形式)をダウンロードしてください。

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

● セットアップファイル

"db-Technologies-Network_x_x.zip"

"**Software & Controllerr**"の項目を開いて、上段の"**Manuals**"の列から対象となる名前のPDFファイルをダウンロードしてください。

● ソフトウェア取扱説明書

"dBTechnologies-Network_Section_A_REV.x.x.pdf"

"dBTechnologies-Network_Section_B_REV.x.x.pdf"

"dBTechnologies-Network_Section_C_REV.x.x.pdf"

セットアップファイルを解凍後、ソフトウェア取扱説明書の手順に従って操作してください。

dBTechnologies Networkについて

このdBTechnologies Networkはリモート操作する際に必要なソフトウェアです。

色々な構成時における本機をコントロールできます。

様々な状況におけるリアルタイム・モニターや、完全なリモート操作が可能で、例えばラインアレイ構成されたスピーカーと3台のサブウーファーの設定や、全システムを稼動中に異なるパラメーターに変更するなどの操作が可能になります。

さらに、本機の詳細な設定や本体の操作部では、行えない項目までコントロール可能です。

dBTechnologies Networkを使うことで、以下のパラメーターを設定することができます。

● 入力アッテネーター

● ディレイ

● Polarity

● カーディオイド設定

● Xover

仕様

形式

アクティブ バスレフレックス サブウーファー

スピーカーユニット

LF : 18インチ (4インチ ボイスコイル)
指向性 : 無指向性

アンプ部

形式 : Digipro G4 クラスD
ピーク出力 : 1600 W
RMS出力 : 3200 W
冷却システム : 対流式

DSP部

コントローラー : DSP 32 bit
AD/DA処理 : 24 bit/96 kHz
リミッター : ピーク、RMS、サーマル
警告LED : リミッター、信号入力、ミュート/保護、レディ
状態LED : リンク、アクティブ、リモートプリセット有効
コントロール
ディレイ調整 : [0~9.9] ms (0.1刻み)
入力感度調整 : [0/-1/-2/-3/-6/-9/-12/-18/-24 dB/Mute]
Xover : [60/70/75/80/85/90/100/110 Hz/フルレンジ]
カーディオイドスイッチ
Polarity スイッチ (0/180°)
System Test スイッチ

音響データ

周波数特性
[-6 dB] : 32 Hz~(X-Over周波数に依存)
[-10 dB] : 35 Hz~(X-Over周波数に依存)
最大SPL (1m) : 139 dB (max)
クロスオーバー周波数 (10Hzステップ刻み)
Low/High : フルレンジ、または60 Hz~110 Hz

外部入力

Input 端子 : XLR 端子 (メス) × 1 (バランス)
USB 端子 : B タイプ × 1
RDNet 端子 : etherCON 端子 × 1 (Neutrik 社製)

外部出力

Link/Xover 端子 : XLR 端子 (オス) × 1 (バランス)
電源 Link 端子 : powerCON TRUE1 端子 × 1 (Neutrik 社製)
(最大供給電流 : 13.2 A / 1500 W)
RDNet 端子 : etherCON 端子 × 1 (Neutrik 社製)

一般

電源

電圧 : AC 100 V~240 V(自動切替式)、50/60 Hz
電源端子 : Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子

注意

日本国内においては、AC100 Vのみ動作保証となります。
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

消費電流

2.7 A (100~120 V時) ※1
6.8 A (100~120 V時) ※2

消費電力

33 W ※3

※1 : 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/8の場合の消費電力
(音楽再生中にクリッピングがほとんど発生しない状態)
いかなる構成時でもこれを最小値としてください。

※2 : 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/3の場合の消費電力
(音楽再生中にクリッピングとリミッターの作動が頻繁に発生する状態)
プロ設備やツアーの場合は、これらの値に従ってサイジングを決めてください。

※3 : 電源オンで入力信号がない時

突入電流

3 A

外形寸法

幅 × 高さ × 奥行き (突起部を含まず)
720 mm × 530 mm × 700 mm

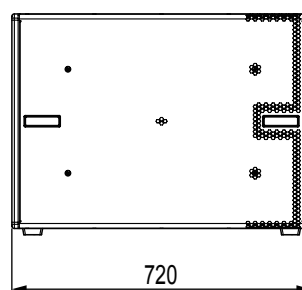
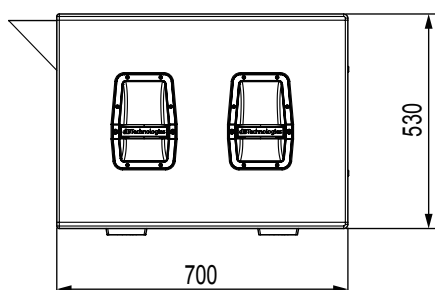
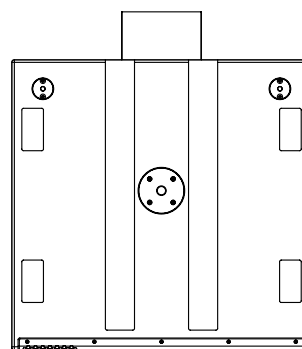
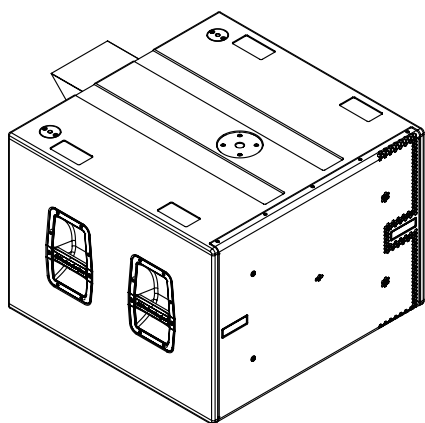
質量

47 kg

動作温度

-15 ~ +55°C

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。



無料修理規定(持ち込み修理)

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼に出来ない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
 - (1)ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2)お買い上げ後の輸送/移動/落下などによる故障および損傷
 - (3)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4)接続しているほかの機器に起因する故障および損傷
 - (5)業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

(6)メンテナンス

(7)本書の提示がない場合

(8)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。

These warranty provisions in Japanese are valid only in Japan.

6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間/条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障/修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

受付時間は、9:30～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in Japan

保証書

品名	dBTechnologies		
機種名	VIO S118R		
機番			
保証期間	本体	1年	
買上げ日	年 月 日		
お客様	お名前		
	ご住所		

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束する。また場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店	見本
-----	-----------

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話：0570-000-501(ナビダイヤル) / 04-2901-1033

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用していただく場合がございますので、ご了承ください。

1218 MA-2827A